

# 2023年3月期 第3四半期決算説明会資料

2023年2月7日  
株式会社ニチレイ

# 第3四半期実績

## ■ コストアップ対応が進み、第3四半期単独で営業利益は増益に転換

(単位：億円)

	第3四半期			第3四半期 (累計)			
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		通期計画に対する進捗率
		増減	率		増減	率	
加工食品	714	103	17%	2,067	249	14%	75%
水産	223	2	1%	548	10	2%	83%
畜産	235	21	10%	655	45	7%	77%
低温物流	648	64	11%	1,839	159	9%	75%
不動産	11	1	7%	34	2	5%	74%
その他	20	11	126%	44	15	52%	89%
調整額	△ 58	△ 1	-	△ 177	△ 6	-	-
<b>売上高合計</b>	<b>1,793</b>	<b>201</b>	<b>13%</b>	<b>5,011</b>	<b>473</b>	<b>10%</b>	<b>76%</b>
加工食品	42	2	5%	104	△ 4	△ 3%	76%
水産	8	△ 1	△ 6%	9	△ 5	△ 37%	90%
畜産	4	0	9%	9	△ 0	△ 2%	77%
低温物流	43	△ 1	△ 2%	115	△ 7	△ 6%	75%
不動産	5	1	17%	14	1	12%	72%
その他	4	6	-	6	10	-	-
調整額	△ 0	1	-	△ 5	0	-	-
<b>営業利益合計</b>	<b>106</b>	<b>9</b>	<b>9%</b>	<b>253</b>	<b>△ 5</b>	<b>△ 2%</b>	<b>80%</b>
<b>経常利益</b>	<b>108</b>	<b>10</b>	<b>10%</b>	<b>258</b>	<b>△ 2</b>	<b>△ 1%</b>	<b>81%</b>
<b>親会社株主に帰属する 四半期純利益</b>	<b>70</b>	<b>△ 0</b>	<b>△ 0%</b>	<b>168</b>	<b>△ 13</b>	<b>△ 7%</b>	<b>79%</b>

■ 売上高は、主力事業において海外を中心に引き続き堅調に推移し10%の増収

■ 営業利益は、第3四半期単独では加工食品の収益改善やバイオサイエンスのけん引により増益転換したが、累計では2%の減益

■ 四半期純利益は、投資有価証券売却益が減少したことなどにより7%の減益

## ■ 収益改善施策を進め、営業利益は計画通りに進捗

(単位：億円)

	第3四半期			第3四半期（累計）				
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		通期計画 に対する 進捗率	
		増減	率		増減	率		
加工食品	売上高合計	714	103	17%	2,067	249	14%	75%
	家庭用調理品	206	20	11%	599	29	5%	76%
	業務用調理品	264	17	7%	769	85	12%	71%
	農産加工品	56	6	12%	153	0	0%	76%
	海外	153	59	63%	426	127	43%	79%
	その他	34	1	2%	119	7	6%	82%
	営業利益	42	2	5%	104	△4	△3%	76%

### 【家庭用調理品】

- ・ チキン加工品の販売数量の回復や、「極太つけ麺」など個食麺類を含む新商品も増収に寄与

### 【業務用調理品】

- ・ 行動制限の緩和に伴い、中食・外食向けは引き続き堅調に推移
- ・ チキン加工品に加え、ハンバーグ、カツ類を含む食肉加工品や春巻など主力カテゴリーが増収に貢献

### 【海外】

- ・ イノバジアン・クイジーン社（米国）による家庭用商品の販売が引き続き好調に推移
- ・ GFPTニチレイ社（タイ）は、欧州向け商品の輸出やタイ国内販売が増収に寄与

### 【営業利益】

- ・ コストアップ影響はあるが、価格改定や海外関係会社の業績改善が進み、第3四半期単独で増益に転換

## ■ 欧州事業が増収をけん引、営業利益は国内外でコスト上昇が響き減益

(単位：億円)

	第3四半期			第3四半期（累計）				
	実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		通期計画 に対する 進捗率	
		増減	率		増減	率		
低温 物流	売上高合計	648	64	11%	1,839	159	9%	75%
	国内小計	463	8	2%	1,353	21	2%	75%
	物流ネットワーク	273	6	2%	795	14	2%	75%
	地域保管	190	1	1%	557	7	1%	75%
	海外	180	61	51%	469	141	43%	78%
	その他・共通	4	△ 5	△ 54%	18	△ 3	△ 13%	36%
	営業利益合計	43	△ 1	△ 2%	115	△ 7	△ 6%	75%
	国内小計	43	2	6%	112	△ 2	△ 2%	81%
	物流ネットワーク	17	2	15%	45	△ 1	△ 2%	80%
	地域保管	26	0	1%	67	△ 2	△ 2%	82%
	海外	3	△ 3	△ 48%	12	△ 2	△ 12%	57%
その他・共通	△ 3	△ 1	-	△ 9	△ 3	-	-	

### 【国内】

(物流ネットワーク)

- ・ 3PL事業は外食向けの取扱いや冷食共同配送業務が堅調に推移

(地域保管)

- ・ 大都市圏を中心に旺盛な保管需要を着実に取り込み増収

(営業利益)

- ・ 業務改善効果や運送効率化、電力・燃油サーチャージの収受などに努めるが、電力料金上昇の影響が大きく減益

### 【海外】

(欧州)

- ・ 前年度に実施した買収効果や小売店向け配送業務の拡大などがあるものの、電力料金などのコスト上昇が響き減益

## ■ 水産は計画に沿って推移、畜産はコスト上昇を吸収しきれず減益

(単位：億円)

		第3四半期			第3四半期（累計）			通期計画 に対する 進捗率
		実績	前年同期間比		実績	前年同期間比		
			増減	率		増減	率	
水産	売上高	223	2	1%	548	10	2%	83%
	営業利益	8	△ 1	△ 6%	9	△ 5	△ 37%	90%
畜産	売上高	235	21	10%	655	45	7%	77%
	営業利益	4	0	9%	9	△ 0	△ 2%	77%

### 【水産】

- ・ 営業利益は、「たこ」の取扱いが前年好調だった反動などにより減益となったが、外食向けの販売が好調に推移したことや価格改定を進めたことなどにより、計画通りの利益を確保

### 【畜産】

- ・ 加工品の拡販や価格改定を進めたものの、飼料価格の高騰などコスト上昇を吸収できず減益

# 通期予想

## ■ 売上高・営業利益はセグメント単位では修正するが、全体では前回計画から変更なし

(単位: 億円)

	通期				
	計画	前年同期間比		前回計画比	
		増減	率	前回計画	増減
加工食品	2,750	308	13%	2,750	0
水産	660	△ 17	△ 3%	660	0
畜産	850	47	6%	850	0
低温物流	2,460	215	10%	2,460	0
不動産	46	3	7%	46	0
その他	61	19	46%	50	11
調整額	△ 227	△ 1	-	△ 216	△ 11
<b>売上高合計</b>	<b>6,600</b>	<b>573</b>	<b>10%</b>	<b>6,600</b>	<b>0</b>
加工食品	138	△ 4	△ 3%	138	0
水産	10	0	4%	10	0
畜産	10	△ 2	△ 14%	12	△ 2
低温物流	148	2	1%	153	△ 5
不動産	18	1	9%	19	△ 1
その他	8	11	-	3	5
調整額	△ 17	△ 8	-	△ 20	3
<b>営業利益合計</b>	<b>315</b>	<b>1</b>	<b>0%</b>	<b>315</b>	<b>0</b>
<b>経常利益</b>	<b>319</b>	<b>2</b>	<b>1%</b>	<b>319</b>	<b>0</b>
<b>親会社株主に帰属する 当期純利益</b>	<b>212</b>	<b>△ 22</b>	<b>△ 9%</b>	<b>212</b>	<b>0</b>

■ 売上高は、コスト上昇に対応した価格改定や、海外のけん引などにより引き続き堅調に推移する見込み

■ 営業利益は、低温物流などを下方修正するが、バイオサイエンスが好調に推移し、全体では計画通り315億円を見込み増益を確保

■ 経常利益は増益、当期純利益は投資有価証券売却益の減少などにより減益となるが、前回計画通り212億円を見込む

## ■ 再度の価格改定や海外関係会社の業績改善により、通期計画達成を図る

(単位：億円)

	計画	通期			
		前年同期間比		前回計画比	
		増減	率	前回計画	増減
売上高合計	2,750	308	13%	2,750	0
家庭用調理品	814	46	6%	789	25
業務用調理品	1,031	105	11%	1,076	△45
農産加工品	200	0	0%	200	0
海外	559	151	37%	539	20
その他	146	6	5%	146	0
営業利益	138	△4	△3%	138	0

加工食品

### 【家庭用調理品】

- ・主力の米飯類・チキン加工品の拡販に加え、「レンジだけでカレーうどん」など新たな価値を付加した商品を投入

### 【業務用調理品】

- ・チキン加工品を中心に、引き続き大手ユーザー向けの取扱い拡大に注力
- ・調理現場の人手不足に対応するアッセンブル商品や個食需要に向けた新商品の販売を引き続き強化

### 【海外】

- ・米国では主力カテゴリーの新商品の投入や、プロモーションの強化により取扱いを拡大
- ・タイでは海外輸出に加え、ペットフード向け原料などの副産物の国内販売に注力

### 【営業利益】

- ・2月実施の価格改定や海外関係会社の業績改善などにより、前回計画通り138億円を見込む

## 営業利益の増減要因

(単位: 億円)

	第3四半期 累計実績	通期計画	前回 計画比
22/3 営業利益	<b>108</b>	<b>142</b>	—
増益要因	<b>97</b>	<b>147</b>	<b>1</b>
価格改定効果	67	111	0
増収効果	10	10	△6
関係会社の業績影響額	17	23	7
生産性改善	3	3	0
減益要因	△ <b>101</b>	△ <b>151</b>	△ <b>1</b>
原材料・仕入コストの増減	△48	△68	△4
円安による原材料・仕入コスト増	△33	△45	9
物流コストの増減	△8	△13	△1
広告宣伝費の増減	3	△1	△1
減価償却費増	△5	△6	0
動力燃料コストの増減	△9	△16	△2
その他	△1	△2	△2
23/3 営業利益	<b>104</b>	<b>138</b>	<b>0</b>

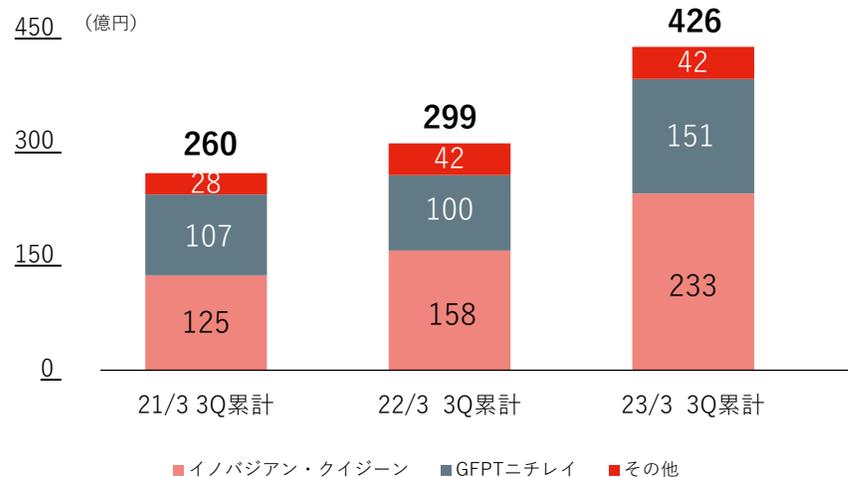
### 【主な内容】

- ・ 価格改定効果  
2月より再度の価格改定を着実に実施
- ・ 増収効果  
業務用調理品の販売が前回計画を下回る見込みとなったことなどにより下方修正
- ・ 関係会社の業績影響額  
米国の販売やタイのG F P Tニチレイの改善が計画以上に推移し7億円上乗せ
- ・ 円安による原材料・仕入コスト増加  
12月以降の円高への反転により、前回計画から9億円改善する見込み

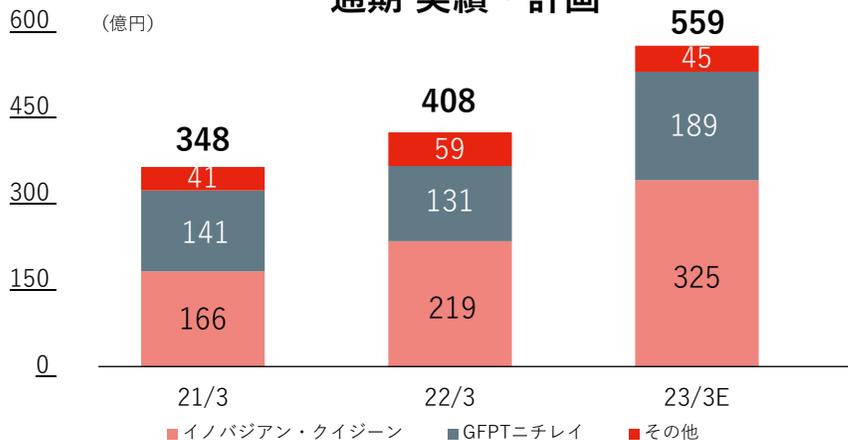
## 海外の状況

### 【売上高の推移】

第3四半期累計実績



通期実績・計画



### 【イノバジアン・クイジーン社（米国） 売上高・営業利益】

第3四半期累計実績

		第3四半期累計		
		実績	前期比	
			増減	率
売上高	連結通貨 (億円)	233	75	48%
	現地通貨 (百万USD)	181	36	25%
営業利益	連結通貨 (億円)	11	△0	△1%
	現地通貨 (百万USD)	8.5	△1.6	△16%

通期実績・計画

		19/3	20/3	21/3	22/3	23/3		
		実績	実績	実績	実績	計画	前期比	
							増減	率
売上高	連結通貨 (億円)	130	146	166	219	325	106	48%
	現地通貨 (百万USD)	118	133	155	199	246	47	23%
営業利益	連結通貨 (億円)	5	6	14	14	18	4	25%
	現地通貨 (百万USD)	4.2	5.2	13.3	12.8	13.4	0.6	5%

## ■ 通期の営業利益は下方修正するが、増益の確保に注力

(単位：億円)

		通期				
		計画	前年同期間比		前回計画比	
			増減	率	前回計画	増減
低温 物流	売上高合計	2,460	215	10%	2,460	0
	国内小計	1,776	32	2%	1,810	△ 34
	物流ネットワーク	1,051	22	2%	1,065	△ 14
	地域保管	725	11	2%	745	△ 20
	海外	634	175	38%	600	34
	その他・共通	50	7	17%	50	0
	営業利益合計	148	2	1%	153	△ 5
	国内小計	134	△ 0	△ 0%	138	△ 4
	物流ネットワーク	54	△ 1	△ 2%	56	△ 2
	地域保管	80	1	1%	82	△ 2
海外	21	0	1%	21	0	
その他・共通	△ 7	2	-	△ 6	△ 1	

### 【国内】

(物流ネットワーク)

- ・ 冷食物流プラットフォームや輸配送の拡大を図る

(地域保管)

- ・ 他社アセットも活用しながら輸入貨物の集荷に注力し、取扱い拡大を図る

(営業利益)

- ・ 増収効果や業務効率化などにより増益の確保に注力
- ・ 電力・燃油サーチャージの収受によるエネルギーコスト高騰影響の軽減を図る

### 【海外】

(欧州)

- ・ コストアップに対応した料金改定を進め、営業利益は前期並みを確保

## 営業利益の増減要因

(単位：億円)

	第3四半期 累計実績	通期計画	前回 計画比
22/3 営業利益	<b>122</b>	<b>146</b>	—
<b>増益要因</b>	<b>14</b>	<b>21</b>	<b>△3</b>
集荷増による業績影響額 (TC含む)	9	13	△3
業務改善効果	3	4	0
運送効率化	3	4	0
海外	△2	0	0
<b>減益要因</b>	<b>△20</b>	<b>△19</b>	<b>△2</b>
電力コスト増 (純額)	△15	△16	△1
輸配送コスト増 (純額)	△3	△4	0
作業委託コスト増 (純額)	0	△1	0
その他	△2	2	△1
23/3 営業利益	<b>115</b>	<b>148</b>	<b>△5</b>

### 【主な内容】

- ・集荷増による業績影響額  
集荷は堅調だが、想定外の荷動き鈍化による再保管コストの負担増などにより下方修正
- ・電力コスト増 (純額)  
電力料金サーチャージ収受の取組みを計画通りに進める
- ・その他  
第4四半期で政策経費の減少を見込む

## ■ 水産は計画通り進捗、畜産は営業利益を下方修正

(単位：億円)

		通期				
		計画	前年同期間比		前回計画比	
			増減	率	前回計画	増減
水産	売上高	660	△ 17	△ 3%	660	0
	営業利益	10	0	4%	10	0
畜産	売上高	850	47	6%	850	0
	営業利益	10	△ 2	△ 14%	12	△ 2

### 【水産】

- ・強みのある商材の拡販や、海外販売の拡大により通期計画達成を見込む

### 【畜産】

- ・国産品の収益改善を図るが、輸入冷凍品の市況悪化の影響により、営業利益を下方修正

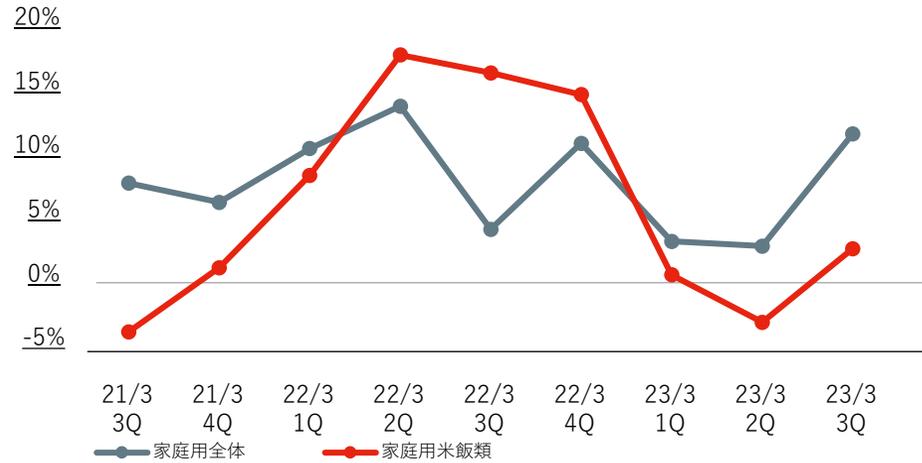
# Appendix

# 営業外収支・特別損益の変動要因

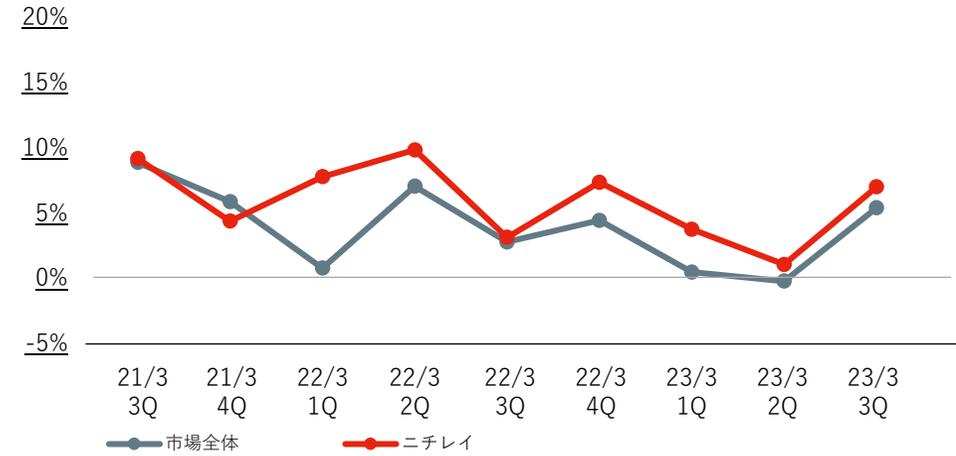
(単位：億円)

	第3四半期累計実績		通期計画	
	22/12	増減	23/3	増減
<b>営業外収支</b>	4	2	3	0
<b>主要項目</b>				
金融収支	3	△0	2	0
持分法による投資損益	2	1	3	1
<b>特別損益</b>	△1	△15	△3	△38
<b>主要項目</b>				
固定資産売却益	0	0	0	0
投資有価証券売却益	5	△7	6	△32
負ののれん発生益	5	5	5	5
収用補償金	0	△12	0	△12
固定資産売却損・除却損	△6	2	△7	4
減損損失	△4	△3	△5	△3

当社の家庭用調理冷食の売上高前年同四半期比の推移

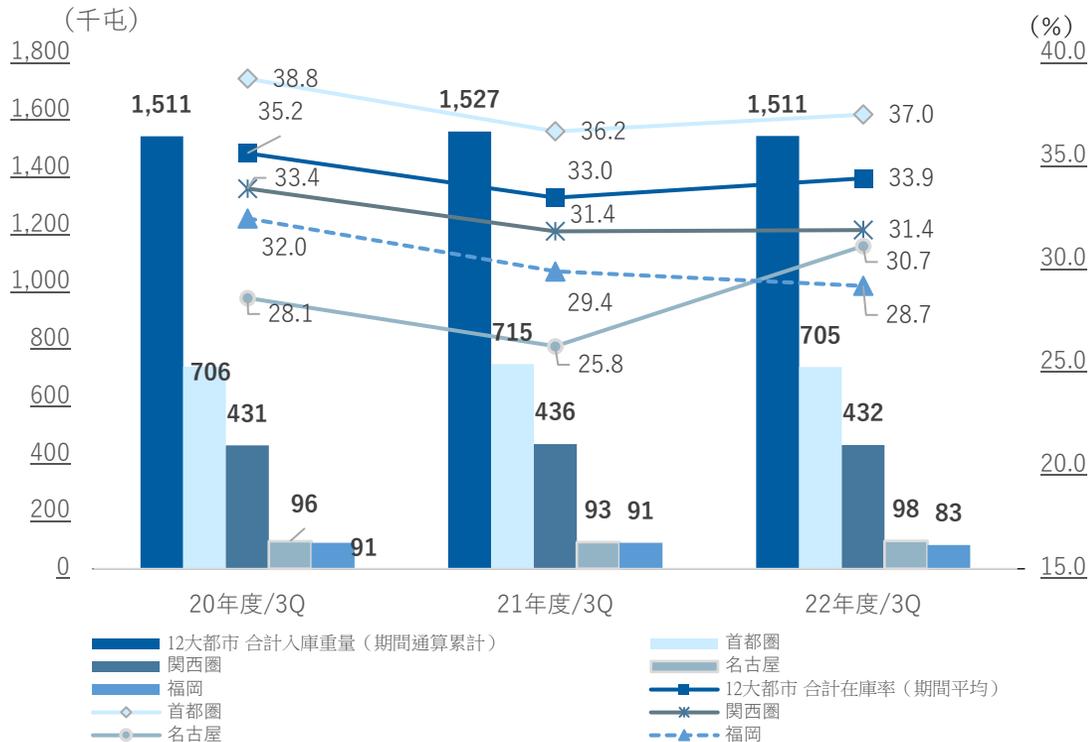


SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年同四半期比の推移

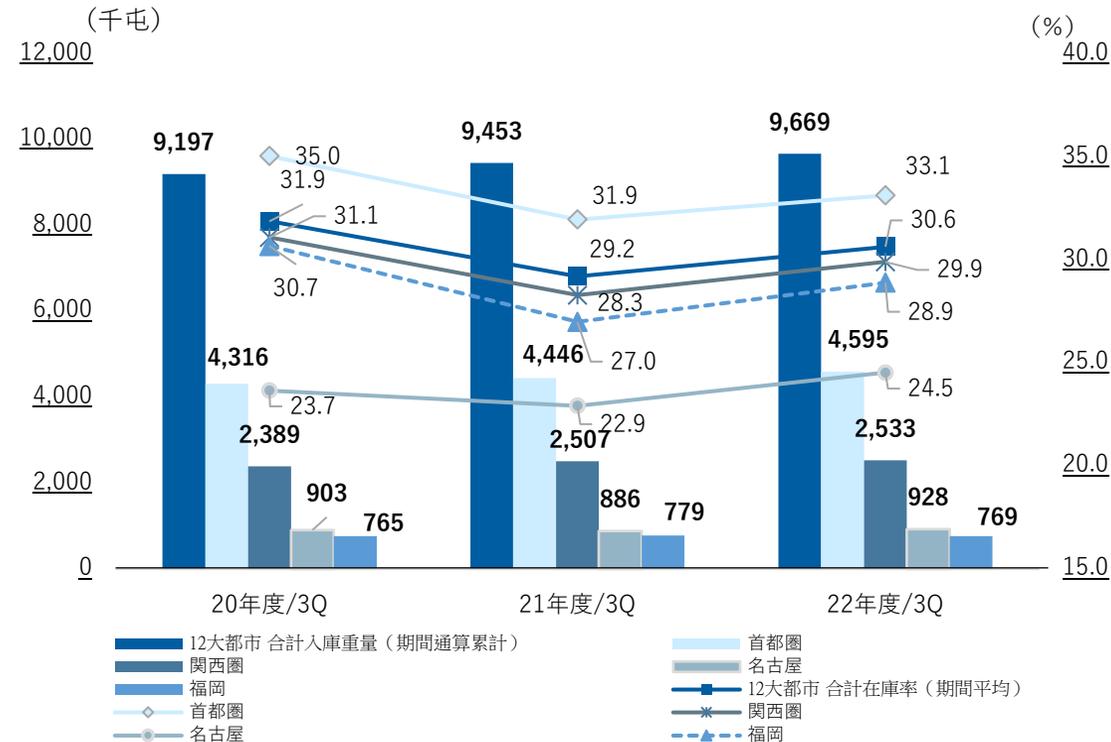


出典：イメージSCI（冷凍調理 100人当たり購入金額の前年四半期比の推移。購入ルート = 生協店舗を含む）

## 当社の冷蔵倉庫稼働状況



## 業界の冷蔵倉庫稼働状況



出典：一般社団法人 日本冷蔵倉庫協会「主要12都市受寄物庫腹利用状況一覧表」を当社で加工

(単位：円)

為替レート	2023年 3月期 計画	2023年 3月期 3Q実績	2022年 3月期 3Q実績
米ドル／円	132.00	128.05	108.50
ユーロ／円	138.00	135.95	129.82
バーツ／円	3.80	3.70	3.45

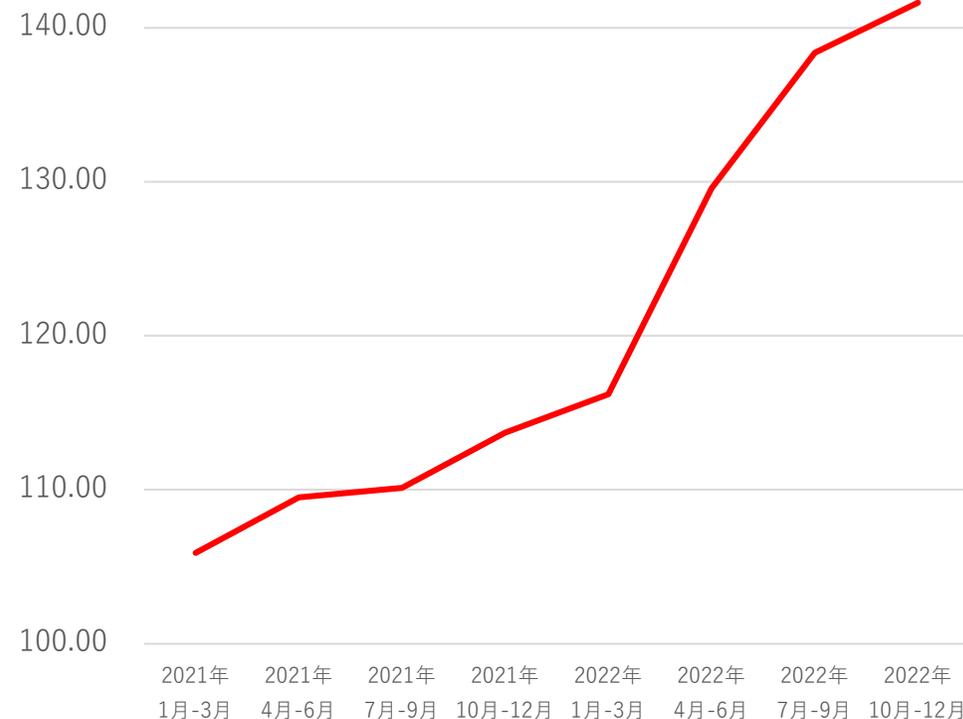
(注) 為替レートの「3Q実績」は、1月～9月までの期中平均で算出している

## 【期中平均レート】

(単位：円)

	2021年 1月-3月	2021年 4月-6月	2021年 7月-9月	2021年 10月-12月	2022年 1月-3月	2022年 4月-6月	2022年 7月-9月	2022年 10月-12月
米ドル／円	105.90	109.49	110.11	113.71	116.21	129.57	138.38	141.64
ユーロ／円	127.68	131.95	129.83	130.07	130.40	138.10	139.34	144.35
バーツ／円	3.50	3.50	3.35	3.41	3.52	3.77	3.80	3.89

期中平均レートの推移 (米ドル／円)



当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみにより全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。